ビジョンを語る会（姫路市：暮らし）　主な意見

・姫路市は自治会加入率が高い（約 90%）が、将来的に維持できるか心配（コミュニティが疲弊し始めている）
・地域力とは、地域のコミュニティの力であり、集団の力をいかに継続していくかが非常に大事
・老人クラブは、高齢者が社会とつながる居場所づくりの役割を果たしているが、近年会員が減少（社会からの隔離による認知症リスクの高まり）
・若い世代は、地域団体に所属しても、仕事を休んだり、自分の時間を使ってまで活動してはくれない（将来のリーダー・後継者が育たない）
・昔と違って共働きの家庭が増えているので、地域活動（自治会、婦人会、子ども会等）は負担が大きい（役員の負担軽減が必要）
・食事は暮らしていく上で大事な要素の一つなので、「食」をテーマにした活動（食育、栄養教室等）はいつまでも必要
・地域福祉の認識を深めてもらうには、小中学生からの福祉教育が必要
・地域活動に関心があっても、地域コミュニティの中で居場所を見つけられない人もたくさんいる
・中播磨地域で予想されている最大震度は 7（山崎断層）であるが、住民の防災意識が低く、あまり知られていない（防災が自分事になっていない）
・企業人や子育て中の母親など様々な人に、防災に少しでも関心を持ってもらえる工夫が必要
・江戸時代に姫路に作られた防災備蓄倉庫「固寧倉」（姫路周辺に 8 カ所現存）は大事な地域遺産であるが、ほとんど知られていない
・人生 100 年時代を迎え、様々な高齢者（元気、身体が不自由、一人暮らし等）が地域社会の中で互いに協力・助け合う仕組みづくりが必要
・地域力を高める活動として住民全員出席で草刈りを実施（子どもとの交流・教育の場、高齢者の健康状態確認の場として重要）
・定年後の元気な高齢者が介護講習を受講（行政が受講料を支援）し、後期高齢者を支える仕組みはどうか
・人数が少ない過疎地域では、一人が自治会等の役を兼任し負担が大きいため、地域活動が停滞（やりたくても子ども会活動まで手が回らない）
・上流の過疎地域で森林が荒れると里山の保水性が失われ、下流の河川の水害につながる（街中の人が上流と交流し、山の管理等を手伝う）
・地域団体同士の横のつながりや交流・協力が大事（組織の形にこだわり、しがらみがあり過ぎる）
・子どもの頃からボランティアの心を教えても、大学生になるとみんな神戸や大阪など外へ出て行ってしまうという課題がある
・人口減少下において外国人を一住民として迎え入れられる地域をつくれるかどうかが大きな鍵を握っている
・ボランティアに意欲的な若者と地域コミュニティの間の断層ギャップ（若者が考えるボランティア・地域活動と自治会活動等との乖離）を埋めないと、若者を惹きつける地域組織はできない